

第二期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会（第7回）
議事要録

日時 平成24年09月25日（火）午後7時～午後9時17分

場所 クリーンセンター3F 見学者ホール

出席 小澤紀美子会長、新垣俊彦委員、金子和雄委員、島森和子委員、高石優委員、飯村雅洋委員、山崎君枝委員、平田昭虎委員、岡田敬一委員、千綿澄子委員、木村文委員、藻谷征子委員、塩澤誠一郎委員、狩野耕一郎委員、越智征夫委員、高橋豊委員、村井寿夫委員、早川峻委員、高橋健一委員、興相信子委員、木村浩委員
事務局（馬場主査他）

コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊主管他）傍聴者8名、記者0名

欠席 なし

配布資料 1. 次第、2. 施設視察報告、3. 第二回作業部会 参加者意見・検討要旨、
4. これまでの委員視察先の整理、5. 第二回作業部会 模式図
6. 視察先の提案（塩澤委員）、7. リサイクル商品作成工場と展示場の提言
8. エコプラザの検討課題

1. 視察報告

- ・事務局より9月6日に行った視察について報告があった。
- ・委員 エコプラザ用賀では女性がいきいきと仕事していたことが非常に印象に残った。いきいきと働ける職場が形成できるような行政と市民の関係を知りたいと感じた。主婦の力を実感した。
- ・会長 行政も会社もできないことを行う組織としてNPOが育ってきたということではないか。ごみ関連では、行政が全てやろうとしているところもあるが、それだけでは進んでいかない。市民レベルで信念を持って活動している人の中で、少しずつネットワークが作られ、徐々に広がってNPOなどに繋がっていると思う。廃棄物は資源であるという理念に基づき運営されているエコにこセンターはNPOの運営である。
- ・委員 産業廃棄物中間処理業者（ナカダイ）が、解体して素材を販売する事業を始めた。素材とアートを結びつけるアイデアは武蔵野市としても何か参考にできることがあるのではないか。ナカダイはアーティストである藤浩志氏とのコラボレーションにより新たな価値を生み出している。また、ウィンローダーという運送会社が、引き取ったものを素材にして、必要な人に持って行ってもらう取組をしている。
- ・会長 クリーンセンターが改築されるのは7年後で、その頃には社会の情勢も変わっているかもしれないが、武蔵野市民の成熟している意識とアートを結びつけるという新しい視点も出てくるかもしれない。
- ・委員 エコプラザ用賀は主婦の視点がよく行き届いており参考になったが、少し広すぎる印象

であった。個人的には、広報誌の作成に関わる機会が多いので、各施設の広報は興味深かった。ものづくり学校の広報誌は地域住民の出来事に関する記事も入っていて、おもしろかった。

- ・委員 エコプラザの運営などに地元の学生などの力を借りることもよいのではないかと感じた。様々な世代が参加することが重要。たとえば、大学のサテライトとして部室をつくることなども考えられないだろうか。

2. 作業部会の検討報告

- ・事務局より資料について説明。
- ・委員より作業部会の検討内容について報告。(以下、要旨を記載)
- ・委員 第一期協議会において、エコプラザは環境啓発施設と思っていたが、最近の議論の中で、リサイクルをする施設だと捉える意見もあることにも気付いた。エコプラザの中身を考える前に目的をしっかりと考えることが重要と思い、作業部会では、環境啓発の対象、内容について整理する目的でコーディネートを行った。ごみを減量化する行動を促すことでCO₂削減低炭素社会の実現につなげていくということについて共通認識が得られたと思う。ごみ減量化の啓発方法の部分について視察が参考になると思い、作業部会にて各委員に視察の感想を聞いた。作業部会では、「どうやって啓発するか」の部分は詰め切れなかったが、今後、啓発の対象、内容を検討したうえで、エコプラザに導入すべき機能、不要な機能等を検討し、具体的な運営者、方法を議論していければと考えている。

リサイクル施設を導入する場合には、学びやコミュニケーションに繋げていく、創造的な取組が必要と感じた。今はごみ問題に全く興味がない人にも目を向けてもらえるようにすることが環境啓発施設の役割だと感じた。リサイクル機能に関する話も出ているが、リサイクルをすることがエコプラザで本当にできるのかという懸念がある。またリサイクルの取組自体をどう啓発につなげていくのかについても気になっている。リサイクル機能施設で環境啓発を行うためには、作業内容を見せたり、体験できたりするような工夫も必要だと感じた。リペア工房という話が出ており、環境を啓発する目的でリペア工房を入れるのはいいのではないか。リサイクル施設としてリペア工房を入れると、全市の粗大ごみをリペアできるのか、エコプラザで機能するのか疑問がある。これは今後の検討課題ではないか。

- ・委員より資料「リサイクル商品作成工場と展示場の提言」について説明。
(以下、質疑)
- ・委員 啓発という言葉が堅いように感じる。エコプラザの中身の議論の原点は、前の協議会での議論にあった、「哲学を作る」というところ。ごみを減らすようなライフスタイルに変えていくきっかけを作れるような場所という意見があった。生活の中からごみを減らすための気づき得られる施設にしたいというイメージである。リペア工房なども機能を固定化していくのではなく、みんなで議論したうえで時代に合わせて柔軟に活動内容を変えていけるような仕組み・運営が必要ではないかと感じている。シルバー人材センターはかちとした組織であるので、エコプラザに入るかどうかはいろいろ考えなければならない。
- ・委員 最近は無垢材が少ない。チップやベニヤが多くリサイクルに適さない廃家具が増えてきている。

- ・委員 シルバー人材センターは一般の市民が再生されたものを利用する側になっている。市民が体験できることが必要なのではないか。例えば、家具の修理などを教えることができる人がいて、参加者自らも技術を学び、ものを作ることができる場所があるといいのではないか。
- ・委員 全市民にごみの減量を徹底させること、特に生ごみを減らすことが一番の減量につながると思うが、これをどうPRしていくかが大事。小学校4年生の社会科見学をきっかけに小中高大とつなげていくことが必要ではないか。皆が訪れたい施設を整備することが重要。そのような意味では、シルバー人材センターの家具修理施設をエコプラザに持ってくるという方がいいになってしまう。
- ・委員 リサイクル機能を全部ここに集約する必要はないと思う。市全体で分散化を進めた方がよい。シルバー人材センターのリサイクル施設をそのままエコプラザに導入するのはあまり望ましくない。リペア工房のようなものはあってもよいと思う。他のリサイクル施設など市内のネットワークも活かして運営していければいいのではないか。啓発というよりも、気づくこと、学び、コミュニケーションに重点を置くことが大事だと思った。市内で活動している人々のネットワークの核になるものがないか。
- ・会長 「啓発」という言葉があまり好きではない。学びあう場・仕組みができることが重要。ごみ問題について学ぶのは小学校だけであり、今後は小学生以外への啓発も重要。中学生がHPを作ってアピールしていくなども考えられる。最近の学校では図工の授業で環境デザインを学ぶ。
環境教育を長年やってきた経験上、共感性がなければ人間の行動変わらないと考えている。根本的な問題に気づき、自ら学び自分のライフスタイルについて見直せるような場にしたい。武蔵野市のエコプラザは、単に展示すればよいという施設にはならないと感じている。エコプラザの今後の方向性については、哲学から意見を出し合ってもう一度議論してもよいのではないか。
- ・委員 見える化をしても人が来なければ意味がない。人を集める工夫が必要であり、様々な人が様々なイベントを開催できる施設にしたい。エコプラザは日常的に市民が様々な活動を持ち寄って開催できるような施設が望ましい。祭は人と人とのつながりをつくる。リサイクル工房ではリユースの大切さを伝えることが重要。また子供たちを集めて科学実験をやって関心につなげていくような工夫、情報提供も必要ではないか。
- ・委員 かつて生ごみの収集をやめて、生ごみを農家の肥料にする実験などもやった。今でも継続してごみ問題に熱心に取り組んでいる人はいるが、町全体での取り組みとなるとあまり変わっていないように思う。劇的に変化を与えるような試みがなければライフスタイルは変わらない。個人で一生懸命ごみ問題に取り組んでいる人に啓発の先頭に立ってもらうことが重要。
- ・委員 リユースも大事だが、ものを大切にすることをPRすることも大事。
- ・副会長 まじめにプログラムは考えながら、アウトプットは少し遊んでみるというのがあってもよいと思う。リペア工房の話聞いていて少し思ったのが、例えば「リペアの鉄人」のようなことができないだろうか。ある期間工房にこもって期間が終了して対決する。投票は子供たちがして、その模様をWEBにアップするなどのアイデアも面白い。人を集めるという意味でハードとしての建築も大切なので、プログラムに合った建築を作っていくことが重要。アーツ千代田は建築学会奨励賞を受賞している。ハードの建物だけでなく、そのシステムも含めて評価されている点が興味深い。

3．エコプラザ（仮称）の今後の方向性

- ・事務局より次回の議論に向けて説明があった。
- ・会長 今日時間がないが、各自ご意見を考えておいてほしい。

4．その他

- ・事務局 10月下旬に新施設の事業者選定手続きの経過報告を行う予定。また、未定であるが、次回協議会前に作業部会の開催も検討している。日程調整表にて参加可能な日程を調整したい。
- ・会長より閉会挨拶。

以上